

大潟区地域協議会だより



上越市 Web
活動状況
へのリンク

第 63 号

発行日:令和 8 年 7 月 25 日 発行者:大潟区地域協議会 会報編集委員会
事務局:大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ(電話 025-534-2111)

大潟区地域協議会 会長の巻頭緒言

会長 佐野 謙一

日頃より、大潟区地域協議会の活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、地域を取り巻く環境が大きく変化する中、私たちの暮らしに身近な課題はますます多様化しており、地域の声を丁寧に受け止め、将来に繋がる取り組みを進めていくことの重要性が高まっています。

大潟区地域協議会は、地域の皆様の思いや願いを共有し、よりよい地域づくりに向けて話し合いを重ねる場として、その役割を果たしてまいりました。安全・安心な暮らしの確保はもとより、子どもから高齢者まで誰もが住みやすく、互いに支え合える地域社会の実現を目指し、今後も皆様とともに歩んでまいります。

地域の力は、一人ひとりの関わりとつながりによって育まれるものです。これからも多くの皆様のご意見を大切にしながら、大潟区のさらなる発展に向けて努めてまいりますので、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

地域協議会の開催状況（令和 8 年度）

第 1 回	令和 8 年 4 月 16 日 (木)	① 上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応(案)について ② 大潟区の「地域の魅力の向上」及び「まちづくり」について ③ 令和 8 年度大潟区に係る主要事業について
第 2 回	令和 8 年 5 月 21 日 (木)	① 大潟区の「地域の魅力の向上」及び「まちづくり」について
第 3 回	令和 8 年 6 月 18 日 (木)	① 地域自治の推進に向けた今後の方策案について ② 頸北地区合同研修会について ③ 大潟区における地域交通について ④ 上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組のスケジュールについて ⑤ (仮称)大潟工業団地土地区画整理事業の施行者の募集について

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」

令和8年5月18日(月) 18時30分～20時 於:大湊コミュニティプラザ 多目的ホール

市民と市長との対話集会に参加して

新保 友美

対話集会「スマイルミーティング」では、まず小菅市長から①みんなの笑顔②産業いきいき③こどもと家族を真ん中に④多様な学びのまちづくりの目標と令和8年度の取組のポイントについて説明がありました。その中で私が興味を持ったことは、13区の地域振興と活力向上の多世代交流プレイスの整備についてです。既存の公共施設を活用し、子どもの遊び場や子育て相談のほか、子どもから高齢者まで幅広い世代が集う場として柿崎区ほか1か所に整備されることです。核家族化により家庭で世代間の関わりが少ない今、多世代交流の場はとても大切だと思います。フリーテーマの意見交換では、地域独自の予算事業の見直しや、運転をしない高齢者の通院時のタクシー負担、中学校部活動の地域移行の課題、大湊キャンプ場や鵜の浜海水浴場の公共施設等のトイレ改修、地域づくりの担い手となる協力隊の要望などの意見がありました。小菅市長は一つ一つに耳を傾け、回答されていました。様々な立場の方々の意見や想いを聞き、地域に暮らす人が幸せで、訪れた方にも喜んでもらえる大湊区になるとよいと思いました。

スマイルミーティングに参加して

小山 泉

昨年11月に市長に就任された小菅市長が大湊区に来られるとのことで、私なりに質問したいことを準備して参加しました。しかし、大湊区には地域への思いが強い方が多く参加されており、私は質問する機会を逃してしまいました。その一方で、地域独自の予算事業や地域活動支援事業、観光に関する事など、さまざまな意見や考え方を伺うことができ、大変勉強になりました。私は現在、地域協議会の中で「地域の魅力の向上」について協議しています。観光に関する話題の中で、小菅市長は上越市を訪れる方々の利便性向上のため、トイレ改修に取り組む考えを示されました。この取り組みをきっかけに、大湊区さらには上越市全体を訪れる方々が増えることを期待しています。私自身も、その実現に少しでも貢献できるよう、地域協議会の中で地域の魅力の向上について話し合いを重ねていきたいと思っています。

小菅市長とのスマイルミーティング in 大湊

横田 佳奈子

市長の令和8年度の取り組みとして4つの視点で提示があり増した。ワードは、1.「笑顔」多世代交流プレイス・医療・介護・福祉・原子力防災・トイレ改修・安定した財政。2.「産業」外国人労働・直江津港開港60周年・サテライトオフィス補助・ものづくり企業支援・スマート農業・インバウンド誘客・インターンシップ受け入れ企業ガイドブック(高校生や大学生等)。3.「こどもと家族」遠方の分娩室への交通費支援・小学校給食の無償提供・奨学金返還助成対象期間延長・メンタルヘルスのネットワーク構築。4.「多様な学び」大学等に補助金・外国につながる学習支援・図書宅配サービス。その後の参加者の意見のひとつとして、平成22年度から毎年28の地域自治区に人口割合等に応じて分配されてきた地域活動支援事業が、令和5年度から地域独自の予算事業となったことについて反対意見があり、議論となりました。今回は出席者の年代が偏っていたようです。色々な世代の参加があったら、市長の提示について、さらに活気のある対話ができたとおもいます。育児世代の皆様も是非参加すると良いと思いました。



自主的審議事項「地域の魅力の向上」アンケート結果と今後について

◆前回に続きアンケート結果の報告です。

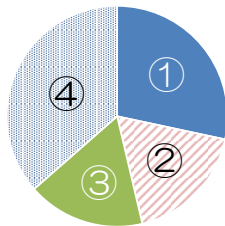
今後はこれを基に、9つの質問を下記の4項目に振り分け、さらにそれぞれを具体的にいくつかにまとめ、関係団体などと意見交換しながら、最終的にPR出来る発信方法などを詰めて行きたいと考えております。

1. 観光 2. 歴史 3. 自然 4. 食

■観光で訪れてみたい場所、おすすめの場所

(回答数：395人)

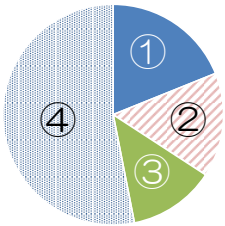
- ①大湊水と森公園 28%
- ②大湊体操場ジムリーナ 18%
- ③鵜の浜人魚館 17%
- ④その他(鵜の浜温泉など) 37%



■歴史・文化で興味があり、詳しく知りたいと思っているところ

(回答数：275人)

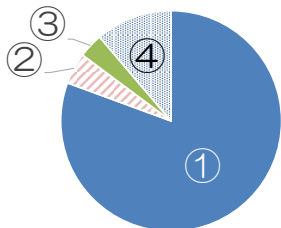
- ①どんどの池 19%
- ②新堀川 15%
- ③北国街道 13%
- ④その他(湯町宿など) 53%



■偉人・著名人などの業績について知っている人

(回答数：196人)

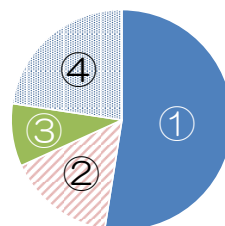
- ①小山作之助 81%
- ②笠原克太郎 5%
- ③小池仁郎 4%
- ④その他(藤縄清治など) 10%



■景観が素敵な場所、自慢できる景色

(回答数：261人)

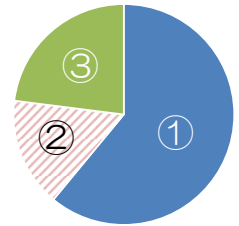
- ①日本海に沈む夕日 52%
- ②蜷ヶ池地内から見る
ほくほく線と田園風景 16%
- ③夕日の森公園 9%
- ④その他(湖沼群など) 23%



■自然が豊かな場所、天然記念物になっているようなもの

(回答数：200人)

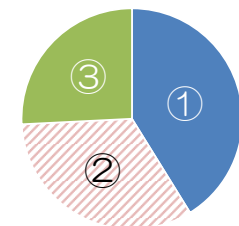
- ①朝日池の白鳥飛来 61%
- ②野鳥観察 16%
- ③その他(砂丘など) 23%



■代表的な郷土料理は何を思い浮かべるか

(回答数：221人)

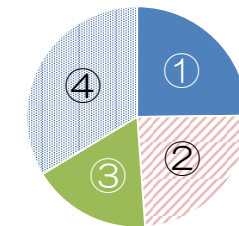
- ①のっぺ 41%
- ②ちまき 33%
- ③その他(いちじく製品など) 26%



■土産物として買っていたきたい物、贈りたい物

(回答数：395人)

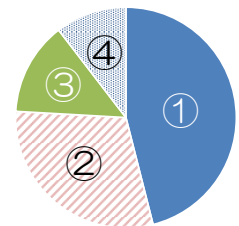
- ①地元蔵元の日本酒 25%
- ②いちじく製品 24%
- ③笹団子 17%
- ④その他(いちごなど) 34%



■代表的なイベント、有名なイベント

(回答数：278人)

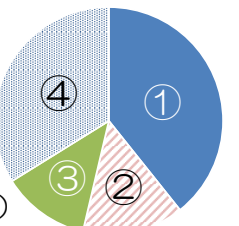
- ①大湊かっぱ祭り 46%
- ②色彩音楽花火 30%
- ③卯の花音楽祭 14%
- ④その他(100円まつりなど) 10%



■暮らしていて良かったこと

(回答数：313人)

- ①災害が少ない 39%
- ②飲食店 14%
- ③公共交通 12%
- ④その他(保育・教育施設など) 35%



自主的審議事項 まちづくり「外出手段」についての詳細と今後について

地域協議会まちづくりグループでは、昨年より住民アンケートや関係機関との協議を通して、地域の現状把握と情報収集を進めてきました。現在の状況やこれまでの取り組み、また今後の方向性について共有いたします。

地域の現状

大湊区の高齢化率は36.5%となっており、将来的な移動手段の確保が課題となっています。また近年は、「部活動の地域クラブ移行」「子どもの活動範囲の広がり」などにより、保護者の送迎負担も大きくなっています。冬季はさらに移動手段が厳しくなることもあり、世代を問わず交通への不安や負担が見られます。

アンケート結果(300件超)

地域住民アンケートでは

- ・子どもの通学・部活動の負担
 - ・免許返納後の移動手段
 - ・冬季移動への不安
 - ・公共交通の利便性への要望
 - ・高齢者の通院・買い物への不安
- などが多く上がっていました。

現在までの取り組み

地域協議会として、「交通政策課との協議」「デマンド交通に関する相談」「実現可能性の確認」を行いました。しかし、地域単位だけで進めることは難しく、行政や関係機関との連携が必要な状況です。

今後に向けて

大湊区各団体との検討会(意見交換会)

■地域移動環境についての情報共有と意見交換

- ・子育て世代の送迎負担
- ・冬季の移動環境
- ・高齢者の移動手段
- ・地域に合った支援や連携の可能性

■関係機関との連携

- ・行政
- ・交通事業者
- ・地域団体

最後に

交通は、高齢者だけでなく、子育て世代を含めた地域全体の課題になりつつあります。将来も安心して暮らし続けられる地域であるために、今から真剣に向き合い継続的な議論につながることを願っています。

押見 吉弘

編集後記

2年ぶりに「大湊かっぱ祭り」が盛大に実施されました。多くの方が楽しめた「祭り」は地域の活性化になったと思います。盛大に開催できたのも、企画・運営に携われた実行委員・関係者のおかげであり、感謝を申し上げます。キャラクターの「がたろう」が、これからも末永く地域に愛されることを期待しています。私達、地域協議会の自主的審議事項の取り組みが地域の活性化に繋がればと思っています。(金澤信夫)

編集委員：金澤 信夫・小山 泉・佐野 謙一・俵木 晴之